

# 春播きブロッコリーで大苗定植すると 収穫時期が早まり虫害が軽減できる

福島県農業総合センター 浜地域研究所  
平成18年度農業総合センター試験成績概要

## 1 部門名

野菜 - ブロッコリー - 育苗、作型、病虫害防除  
分類コード 03-25-06182300

## 2 担当者

水野由美子・常盤秀夫

## 3 要旨

相双地方の春播きブロッコリーは、128穴セルトレイで約1ヶ月育苗し、遅霜の危険性の少ない4月10日以降に定植して、6月10日頃から収穫となるが、虫害が多発するために有機栽培は難しい。そこで、葉齢の進んだ大苗を定植することで害虫の少ない早い時期に収穫する作型について検討した。

- (1) 128穴セルトレイで育苗した慣行セル苗と、16穴連結ポットで育苗した大苗を4月10日に定植した。定植時の苗の生育は、セル苗が葉齢2.0(育苗日数26日)、大苗が葉齢5.2(育苗日数46日)であった。試験は平成18年に実施した。
- (2) 収穫は、大苗定植の方がセル苗定植よりも2週間程度早まり(5月下旬)、本圃期間が短くなった。
- (3) 収穫物の虫害割合は、セル苗定植ではアオムシ、ヨトウガ、コナガによる被害が30~60%であったが、2週間程度収穫が早まった大苗定植ではアオムシによる被害が20~30%で、ヨトウガ、コナガによる被害は見られなかった。
- (4) 以上のことから、春播きブロッコリー栽培において、16穴連結ポット育苗による大苗を4月10日に定植することによって、霜害に遭わずに収穫が通常より2週間程度早まることがわかった(5月下旬)。また、収穫物にはアオムシ以外の害虫被害(ヨトウガ、コナガ)は見られず、虫害が軽減された。

## 4 その他の資料等

防虫ネットや不織布を用いた被覆栽培を行うことによって6月以降の収穫についても虫害がほぼ完全に回避できる(H18参考となる成果「春播きブロッコリー被覆栽培における害虫侵入防止効果」)。